

考古展

第3回

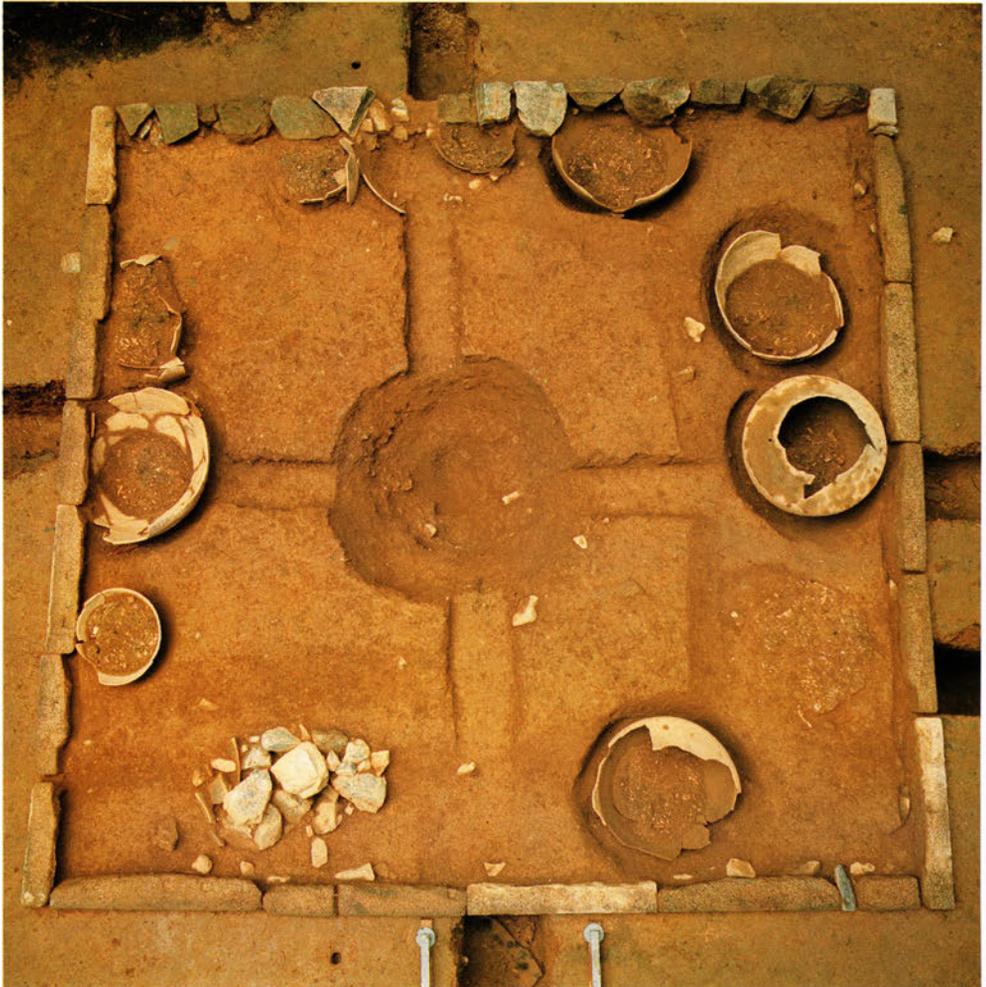
# 小さな展覧会

—昭和58年度発掘調査の成果から—





青野西遺跡出土の土器



三宝院宝篋印塔内の甕出土状況

## 昭和58年度の発掘調査概要

昭和58年度の発掘調査は、前年度と同じく、道路建設に伴う事前調査が大多数を占めました。建設省関係では綾部市青野西遺跡・亀岡市北金岐遺跡・亀岡条里制遺構を調査しました。日本道路公団の関係では、福知山市ケシケ谷遺跡・薬王寺古墳・洞楽寺遺跡の発掘調査を実施しましたが、この調査は近畿自動車道舞鶴線の建設に伴うものです。亀岡・老ノ坂バイパスの予定路線内では篠薫跡群の試掘調査を実施しました。また、府道関係の千代川・桑寺遺跡の調査では墨書土器や瓦が見つかるなど大きな成果をおさめました。

そのほかの調査では、府立学校の増改築・新築工事の関連で、舞鶴市田辺城跡・京北町上中遺跡・丹波町蒲生遺跡・京都市南区平安京跡・長岡京市長岡京跡の調査を行い、弥生時代から江戸時代にいたるさまざまな遺跡のようすを明らかにすることができました。また、流域下水道設置工事に伴う八幡市木津川河床遺跡の調査では、低湿地であるにもかかわらず、人間の生活した跡を見つけたことは大きな収穫でした。

ほかにも発掘調査した遺跡はたくさんありますが、今後もこのような発掘調査の積み重ねによって、京都府下の歴史と文化が少しずつ明らかになっていくことを期待しています。



第2回小さな展覧会

## 昭和58年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名称	種別	所在地	調査担当者	調査期間	概要	出土遺物
1	中山城跡	城跡	舞鶴市中山	竹原 一彦 小池 寛	58. 6. 20~ 9. 22	解説参照	解説参照
2	田辺城跡第3次	城跡	舞鶴市行永	辻本 和美	58. 7. 5~ 7. 30	顕著な遺構なし	古銭・漆器椀片
3	田辺城跡第4次	城跡	舞鶴市円満寺	辻本 和美	58. 8. 25~ 9. 29	中世土塚	土器片
4	ケシケ谷遺跡	集落跡	福知山市大内	岩松 保	58. 8. 4~ 59. 3. 31	解説参照	解説参照
5	薬王寺古墳	古墳	福知山市	小山 雅人 伊野 近富	59. 3. 6~ 3. 30	木棺直葬	須恵器・土師器
6	洞楽寺遺跡	集落跡	福知山市多保市	岩松 保 藤原 敏晃	58. 5. 17~ 6. 30	解説参照	解説参照
7	奥谷西遺跡	集落跡	福知山市	藤原 敏晃	58. 12. 12~ 59. 3. 28	竪穴式住居4, 溝2, 土塚1	弥生土器・須恵器 ・石器・緑釉陶器
8	土師南遺跡	散布地	福知山市土師南町	藤原 敏晃 岩松 保	58. 7. 4~ 7. 28	顕著な遺構なし	土師器・須恵器・ 陶器
9	石本遺跡	散布地	福知山市牧	辻本 和美	59. 3. 10~ 3. 28	試掘調査	土器片
10	青野西遺跡	集落跡	綾部市青野町	小山 雅人	58. 4. 25~ 9. 2	解説参照	解説参照
11	蒲生遺跡	集落跡	船井郡丹波町豊田	引原 茂治	58. 7. 2~ 8. 25	竪穴式住居1, 土塚6, 掘立柱 建物1, 柵列1	弥生土器片・石器
12	上中遺跡	散布地	北桑田郡京北町下弓削	増田 孝彦	58. 7. 18~ 9. 9	解説参照	解説参照
13	千代川遺跡第3次	集落跡	亀岡市千代川町	岡崎 研一	58. 5. 30~ 8. 12	解説参照	解説参照
14	千代川遺跡第4次	集落跡	亀岡市大井町小金岐	村尾 政人	58. 6. 20~ 10. 15	解説参照	解説参照
15	千代川遺跡第5次	集落跡	亀岡市大井町小金岐	村尾 政人	58. 10. 11~ 11. 30	解説参照	解説参照
16	千代川桑寺遺跡	集落跡 官衛 寺院	亀岡市千代川町	森下 衛 引原 茂治	58. 9. 9~ 59. 1. 20 59. 2. 6~ 3. 13	解説参照	解説参照
17	北金岐遺跡	集落跡	亀岡市大井町	石井 清司 田代 弘衛 森下 衛	58. 5. 17~ 3. 24	解説参照	解説参照
18	亀岡条里制跡	条里制跡	亀岡市大井町他	石井 清司 田代 弘衛 森下 衛	58. 7. 18~ 3. 24	顕著な遺構なし	
19	篠窯跡群	窯跡	亀岡市篠町	水谷 寿克 引原 茂治 岡崎 研一	58. 5. 25~ 6. 30 59. 2. 6~ 3. 28	試掘調査 灰原・工房跡	須恵器・緑釉須恵器
20	長岡宮跡 第134次	宮殿跡	向日市上植野町南開	長谷川 達	58. 6. 6~ 6. 20	解説参照	解説参照
21	長岡宮跡 第140次	宮殿跡	向日市上植野町御塔道	増田 孝彦	58. 10. 11~ 11. 13	解説参照	解説参照
22	長岡京跡右京第127次	都城跡	長岡京市下海印寺他	山下 正	58. 4. 4~ 8. 23	解説参照	解説参照
23	長岡京跡右京第141次	都城跡	長岡京市今里3丁目	山下 正	58. 8. 11~ 10. 24	解説参照	解説参照
24	長岡京跡右京第148次	都城跡	長岡京市開田3丁目	長谷川 達 黒坪 一樹	58. 11. 10~ 12. 26	解説参照	解説参照
25	長岡京跡右京第153次	都城跡	長岡京市今里赤上, 同4丁目	長谷川 達	58. 12. 9~ 59. 2. 2	解説参照	解説参照
26	長岡京跡左京第103次	都城跡	長岡京市神足柳田	長谷川 達	58. 8. 3~ 8. 19	解説参照	解説参照
27	百々遺跡	散布地	乙訓郡大山崎町	竹井 治雄	58. 2. 6~ 3. 2	顕著な遺構なし	土師器片・須恵器片

28	平安京跡	都城跡	京都市南区	松井 忠春	58. 7. 18~ 59. 1. 30	土壇状掘り込み、 方形住居跡	須恵器片・土師器 片・陶器片・瓦片
29	木津川河床遺跡	集落跡	八幡市八幡	黒坪 一樹	58. 5. 17~ 9. 15	解説参照	解説参照
30	三宝院宝篋印塔 基壇	古 墓	京都市伏見区醍醐	増田 孝彦	58. 11. 22~ 59. 3. 17	解説参照	解説参照
31	隼上り遺跡	散布地	宇治市菟道	小池 寛一彦 戸原 和人	58. 10. 20~ 59. 3. 31	解説参照	解説参照
32	西出合遺跡他	散布地	相楽郡精華町東畑	石尾 政信 山下 正	58. 4. 25~ 59. 3. 30	顕著な遺構なし	土師器・須恵器・ 瓦片・刀子・瓦質 土器

## 展示品出土遺跡位置図



## 発掘調査（測量から報告まで）



1. 地形測量  
遺跡の地形を記録します。



4. 写真撮影  
遺跡を写真で記録します。



2. 掘削  
表土をとり除きます。



5. 実測  
遺構・遺物を図面に記録します。



3. 掘削  
遺構を見つけて掘り下げます。



6. 現地説明会  
遺跡を多くの人に紹介します。



7. 遺物洗浄  
遺物の汚れを洗い落とします。



10. 遺物復元  
石膏でもとの形に復元します。



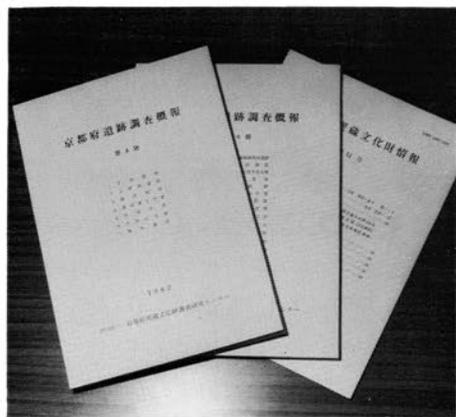
8. 遺物接合  
破片をつなぎあわせます。



11. 原稿作成  
調査・研究の成果をまとめます。



9. 遺物実測  
遺物の形態・特徴等を記録します。



12. 報告書刊行  
報告書を刊行し、調査を終了します。

## ケシケ谷遺跡

弥生時代・中期～古墳時代  
福知山市大内



竪穴式住居跡

### 〔遺跡の概要〕

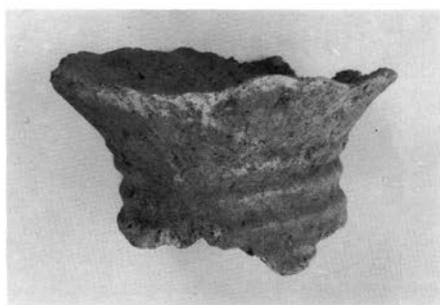
ケシケ谷<sup>だに</sup>遺跡は、福知山市の東南部の丘陵上にあつて、弥生時代の集落跡があると予想されてきました。

調査の結果、弥生時代の<sup>たてあなしきじゆうきよあと</sup>竪穴式住居跡が12基以上も確認されましたが、5回以上の建て替えがあつて、1つの時期には2～3基の家が建つていたと考えられます。今年度の発掘調査でみつかつた竪穴式住居跡の1つ（写真）は、中央に<sup>ろ</sup>炬があり、<sup>しゅちゆう</sup>主柱（屋根を支える柱）も6本を数えました。直径は8mもある大きなもので、<sup>はいすいこう</sup>排水溝もみつかるなど、丘陵上にある住居跡としては珍しくよく残つていたといわなければなりません。

このように、弥生時代の住居跡が多くみつかつたのですが、調査地の北西部では古墳時代の竪穴式住居跡も検出できました。弥生時代から古墳時代にかけて、この地は、人々の生活した場であつたようです。



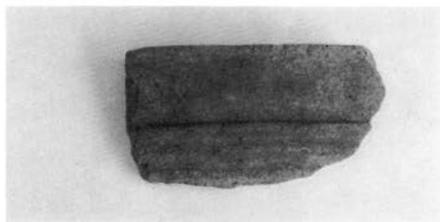
1. 弥生土器



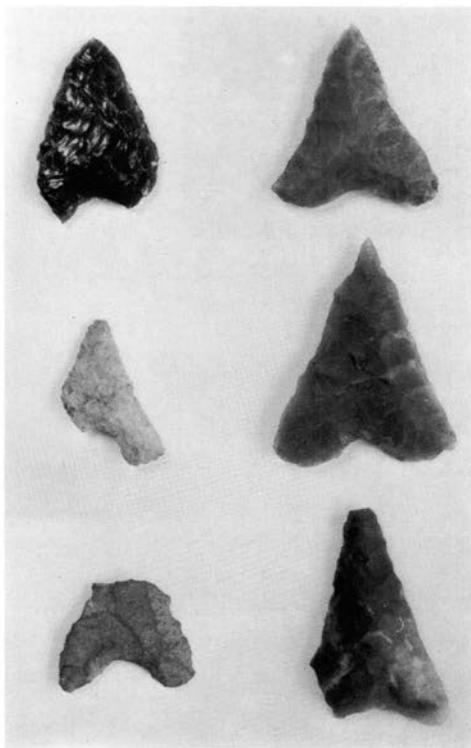
2. 弥生土器



3. 弥生土器



4. 弥生土器



5. 石 鏃



6. 石 鏃



掘立柱建物跡

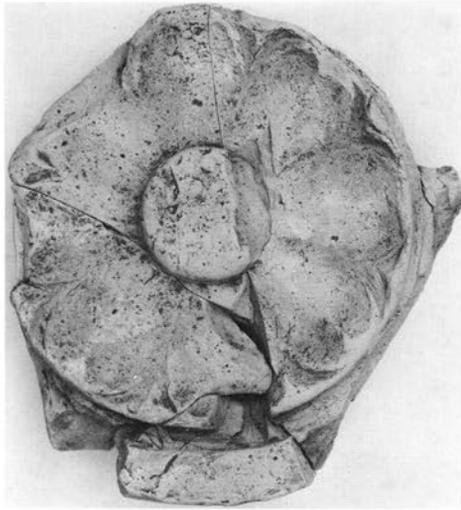
## 〔遺跡の概要〕

千代川・桑寺遺跡は、大堰川西岸の行者山北東麓に形成された扇状地上に位置します。

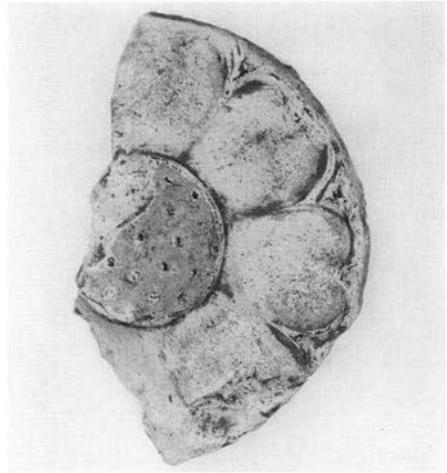
発掘調査の結果、調査地西半部では奈良時代を中心とした掘立柱建物跡・築地状遺構・溝などを検出しました。これらは、従来からこの地に推定されている丹波国府跡や桑寺廃寺に関するものと考えられます。また、東半部では弥生時代中期の集落跡（竪穴式住居跡・倉庫跡等）や方形周溝墓を検出しました。

これらに伴って弥生時代中期の土器（壺・甕・高杯等）や奈良時代を中心とした須恵器・土師器・古瓦類・木製品が多量に出土しました。中でも奈良時代の遺物として「寺」・「田邊」・「吏」と書かれた墨書土器や舟状木製品など注目すべきものがあります。

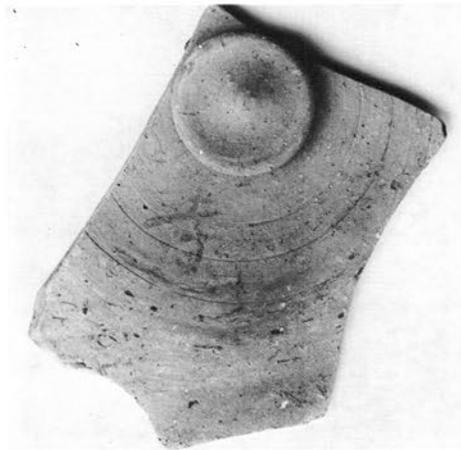
今回の調査では、国府や桑寺廃寺と考えられる資料ばかりでなく、弥生時代中期以後の大規模な集落が営まれたことも判明しました。



7. 軒丸瓦



8. 軒丸瓦



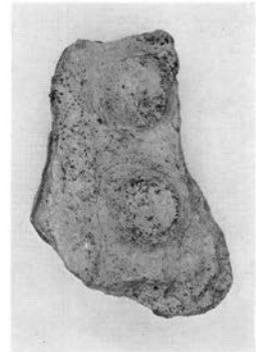
9. 墨書土器「寺」



10. 墨書土器「田邊」



11. 弥生土器



12. 鷗尾片

## 北金岐遺跡

弥生時代・後期～古墳，奈良・平安時代  
亀岡市大井町



竪穴式住居跡

### 〔遺跡の概要〕

亀岡市大井町に所在する北金岐遺跡は、行者山からゆるやかにのびる丘陵の先端部に位置します。発掘調査の範囲は、東西70m・南北480mと広大なものでしたが、調査の結果、弥生時代から室町時代にいたる複合遺跡であることがわかりました。

弥生時代の遺構は、竪穴式住居跡3基、水田に水を引くための堰1、倉庫跡1棟などがみつけられました。遺物は、堰を設けた溝の中から大量に出土しました。土器は、壺・甕・鉢・器台とその種類も多く、近江系と呼ばれる土器も含まれていました。石器では石斧や叩き石が出土し、木器では田舟や梯子も出土するなど、大きな成果をあげました。

古墳時代以降の遺構では、掘立柱建物跡10棟以上、倉庫跡2棟などが重要と思われます。時期は、奈良～平安時代のもので、溝で区画された中に建物が配置されており、奈良時代頃の集落のあり方を考える上で、貴重な資料になることはまちがいありません。



13. 土師器 甕



14. 弥生土器 鉢



15. 弥生土器 甕



16. 弥生土器 台付鉢



17. 弥生土器 器台



18. 弥生土器 脚台付鉢

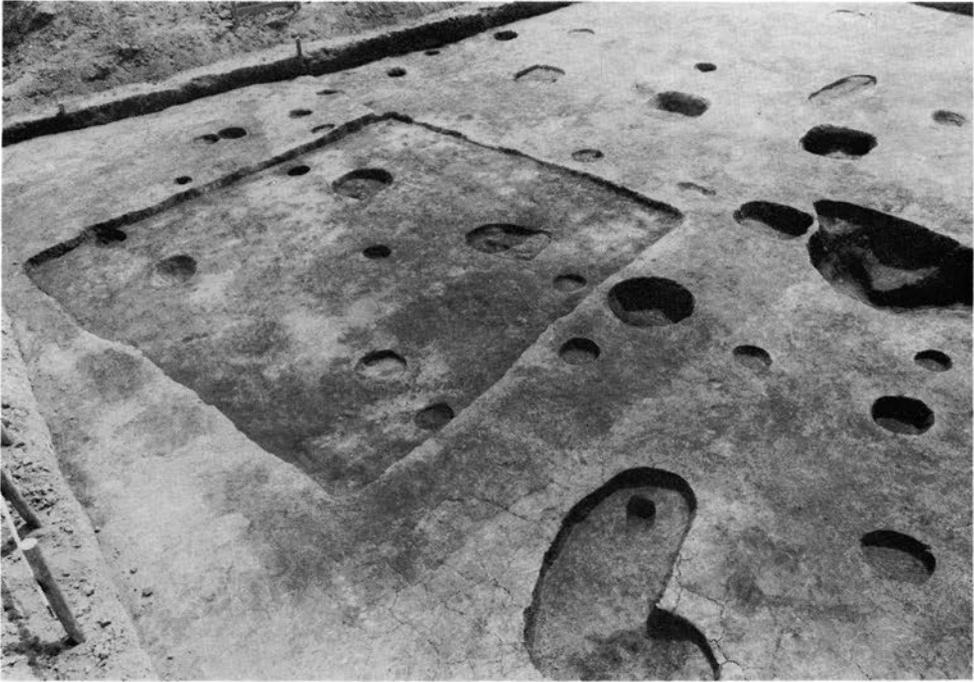


19. 弥生土器 裝飾器台

## 千代川遺跡

(第3次・第4次・第5次)

弥生時代～古墳時代、  
奈良・平安時代  
亀岡市千代川町



竪穴式住居跡

### 〔遺跡の概要〕

千代川遺跡は、亀岡市千代川町から大井町にかけて広がる集落跡で、昭和58年度は、第3次・第4次・第5次の3度にわたって調査を実施しました。

第3次・第5次の調査では、古墳時代前期の竪穴式住居跡や溝などの重要な遺構が多数みつかりました。中でも、第3次調査でみつかった2基の竪穴式住居跡には、ベッド状遺構（住居内周辺部が中央部よりも1段高くなっている）をもっているのが注目されます。また、住居跡の北側には自然流路があり、それを利用して溝も造られているので、一つの環濠集落を形成していたと思われます。

第4次調査では、古墳時代後期にかけての土師器や石器類が多数出土しました。また、この調査では奈良時代の掘立柱建物跡もみつかり、千代川遺跡が弥生時代以後の各時代にわたる複合遺跡であることが改めて確認されました。



20. 弥生土器 壺



21. 石 匕



22. 弥生土器 鉢



23. 土師器 壺



24. 土師器 高杯



26. 須恵器 杯身



25. 土師器 小型丸底壺



27. 墨書土器

## 青野西遺跡

弥生時代・後期～古墳時代・後期  
綾部市青野町西吉美前



調査地全景

### 〔遺跡の概要〕

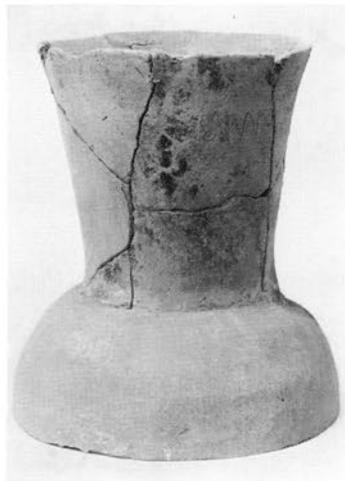
青野西遺跡は、一昨年度の青野遺跡北西部の試掘調査によって、新しく知られた集落遺跡です。縄文時代から中世に至る集落の青野遺跡とは、由良川旧河道によって隔てられています。遺構の時代は、平安時代初頭の溝1条以外は、弥生時代後期から古墳時代前期に限られます。

住居跡は竪穴式のものが15基あり、他に掘立柱の倉庫が1棟確認されています。最も古い住居跡は弥生時代後期中頃（12号）で、最も新しいのは古墳時代前期後半（4号・9号）であり、約200年の間に、住居の平面形が大型の隅丸方形から小型の方形へと変っていったことがわかりました。

遺物には、漁網のおもりに使われた土錘が多く出土しており、当時の由良川での漁撈が生活の中で重要であったようです。また、1点ずつですが碧玉製の管玉とガラスの小玉があり、当時玉作りが盛んであった丹後をはじめ、山陰・北陸地方との交流も考えられます。



28. 弥生土器 甕



29. 弥生土器 長頸壺



30. 土師器 甕



31. 土師器 小型丸底壺



32. 土師器 小型埴



33. 土師器 器台



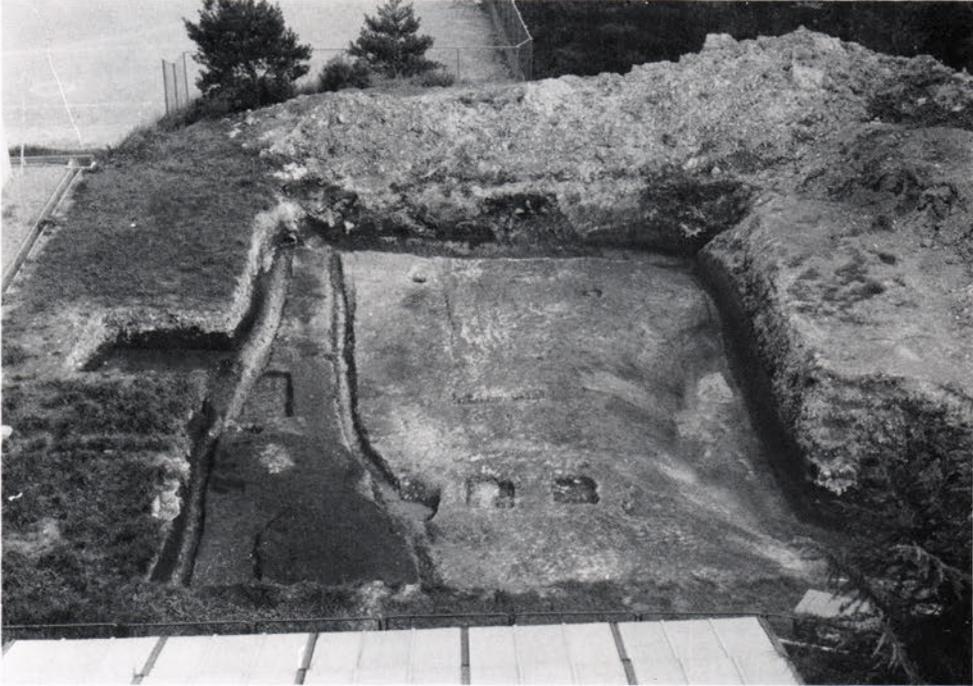
34. 弥生土器 手焙り形土器



35. 石鏃・管玉・小玉

## 上 中 遺 跡

古墳時代  
北桑田郡京北町下弓削



調査地全景

### 〔遺跡の概要〕

上中遺跡は、北桑田郡京北町の中心を流れる大堰川の支流である弓削川によって形成された平地に位置します。この遺跡は、弓削川右岸にあります。弓削川流域にはこの遺跡だけでなく、数多くの遺跡が分布しています。例えば、弓削川の右岸では文久元(1861)年に銅鐸が出土したといわれています。

今回の調査は、京都府立北桑田高等学校の格技場新築工事に先立って実施しましたが、柱穴状の掘り込み2・縦穴2・土壇1・川跡1をみつけた以外は、明確な遺構はありませんでした。遺物は、遺構に伴うものはほとんどありませんでしたが、古墳時代後期から平安時代にかけての須恵器片(甕・壺・杯・蓋・長頸壺)、土師器片(甕・壺・高杯・器台)が出土しました。遺構に伴う遺物はわずかですが、川跡から出土した弥生土器(甕・壺・器台・高杯)やわずかに加工痕のある木器が注目されます。



36. 土師器 甕



37. 土師器 甕



38. 叩き石



39. 土師器 鉢



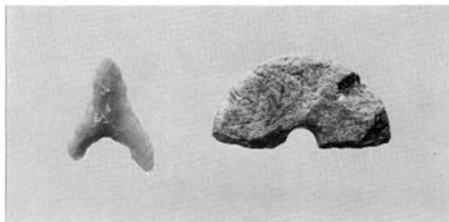
40. 土師器 器台



41. 土師器 鉢



42. 須恵器 杯蓋



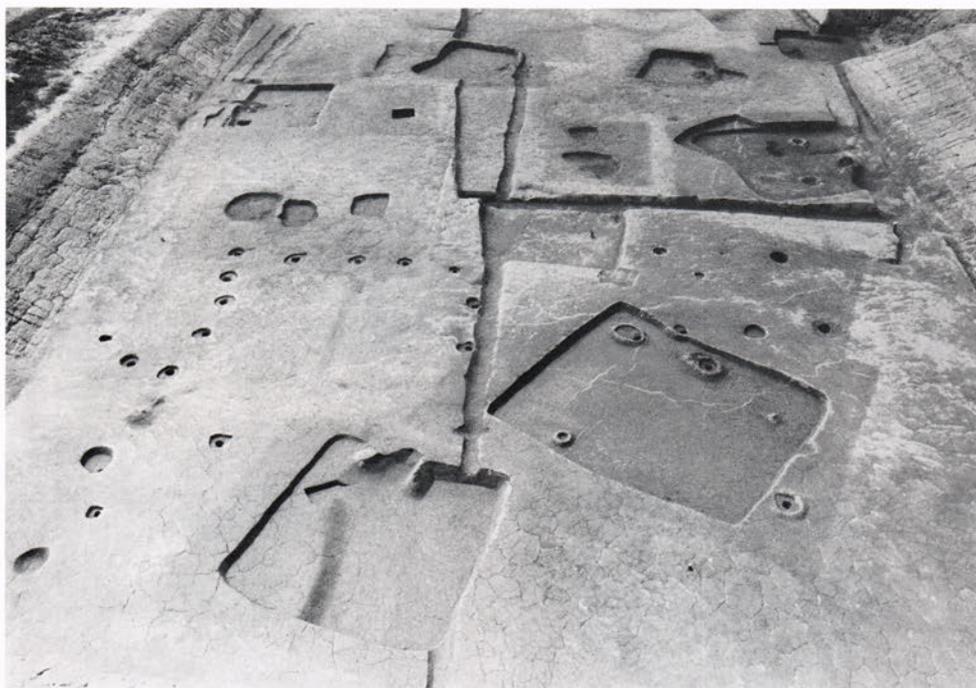
43. 石鏃・紡錘車



44. 須恵器 杯身

## 木津川河床遺跡

弥生時代・後期～古墳時代  
八幡市八幡字源野・焼木



調査地全景

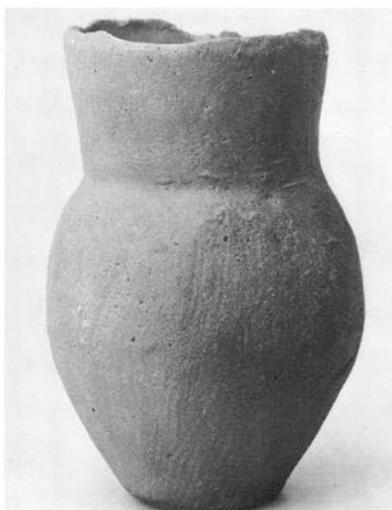
### 〔遺跡の概要〕

木津川河床遺跡は、宇治川と木津川にはさまれた海拔約10mの沖積平野<sup>ちゅうせき</sup>にあります。弥生時代から中・近世にいたるまでの遺物が出土することで有名な遺跡です。

今回の調査では、<sup>たてあなしきじゆうきよあと</sup>堅穴式住居跡10基・<sup>ほつたてぼしらたてもあと</sup>掘立柱建物跡1棟・<sup>ちよぞうけつ</sup>貯蔵穴1・<sup>どきだま</sup>土器溜り2か所・<sup>みぞ</sup>溝7条・<sup>どこう</sup>土坑などといった遺構がみつかりました。住居跡は、<sup>すみまるほうけい</sup>隅丸方形のものと正方形のものとのありましたが、そのうちのいくつかには<sup>ばていけい</sup>馬蹄形をした<sup>かまど</sup>竈がありました。また、掘立柱建物は、切り込まれている面から判断すると、堅穴式住居が建てられた時期とほぼ同じ時期に当ると考えられます。

出土した遺物は、<sup>はじき</sup>土師器（<sup>かめ</sup>甕・<sup>こしき</sup>甑）、<sup>すえき</sup>須恵器（<sup>つきみ</sup>杯身・<sup>つぼ</sup>壺・<sup>きんかん</sup>甕）が大部分でしたが、<sup>ぼうすいしや</sup>金環1点と<sup>ぼうすいしや</sup>紡錘車1点も出土しています。これらの遺物から、住居跡は6世紀末から7世紀前半頃に営まれたことがわかりました。

なお、遺構に伴うものではありませんが、古墳時代前期の土器も多く見つかっています。



45. 弥生土器 小型長頸壺



46. 土師器 甕



47. 弥生土器 壺



49. 土師器 高杯



48. 土師器 小型丸底壺



50. 土師器 小型器台



51. 土師器 壺



52. 金 環



53. 紡 錘 車

## 洞楽寺遺跡

古墳時代・後期  
福知山市多保市



調査地全景

### 〔遺跡の概要〕

洞楽寺遺跡は、福知山市大内に所在する曹洞宗洞楽寺の裏山にあります。付近の集落からは約20m高い丘陵上ですが、昭和57年度の発掘調査で古墳がみつかりました。

今回の調査地は、古墳の隣接地にあたり、古墳と何か関係のある遺構が見つかるのではないかと期待されていました。調査の結果、たてあなしきじゆうきよあと 竪穴式住居跡2基・どこう 土塚7基・ろぞ 溝1条・落ち込み2か所がみつかりました。そのうち、住居跡は、約6mの間隔で造られ、家を建てる方向もそろえられていました。住居跡内の北辺には、ばていけい 馬蹄形をした「かまど 竈」の跡がみつかりました。当時は、ここで煮炊きをしていたわけですが、住居跡内には当時の人々が使った土器の破片が散らばっていました。それらから年代を推定すると、6世紀初頭頃になります。また、ほうすいしや 紡錘車やどすい 土錘なども発見されていますので、この丘陵上に住んだ人々は、糸をつむ 紡いだり、りよう 漁をして生活していたことなどもわかりました。



54. 須恵器 杯身



55. 須恵器 杯身



56. 須恵器 臺



57. 紡 錘 車



58. 須恵器 碗



59. 土 錘



住居跡竈検出状況



紡錘車出土状況

## 隼上り遺跡

古墳時代・後期～近世  
宇治市菟道東隼上り



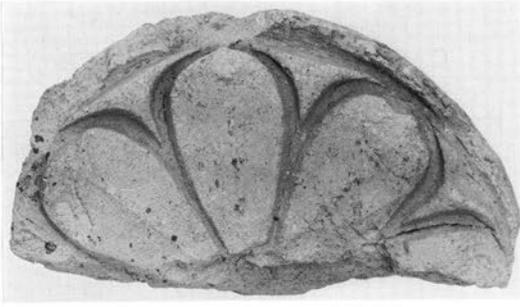
調査地全景

### 〔遺跡の概要〕

隼上り遺跡は、宇治市菟道<sup>とどう</sup>にあって、近くには飛鳥時代の瓦<sup>かわら</sup>（豊浦寺へ供給）を焼いた窯<sup>かま</sup>もあり、最近にわかになら注目されるようになりました。

今回の調査では、柱穴<sup>ちゆうけつ</sup>・土壇<sup>どこう</sup>などの遺構が多数見つかりました。この柱穴や土壇からは、隼上り瓦窯と併行する時期の瓦や須恵器が出土しただけでなく、焼け損いの須恵器も出てきました。また、焼土壇からはほぼ完全に近い丸瓦も出てきていますので、隼上り瓦窯で焼いた瓦を一時保管した倉庫が存在したのかもしれませんが。そうすると、瓦窯→当地→宇治川→奈良県・豊浦寺へと運ばれたと推定できます。

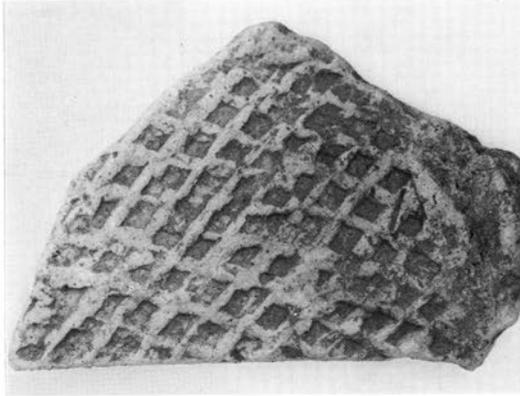
また、柱穴から出土した白鳳時代<sup>はくほう</sup>（7世紀後半）の遺物の中では、斜格子叩き<sup>ななめこうしたた</sup>のある平瓦<sup>ひら</sup>が注目されます。この瓦と同じものが宇治市の大鳳寺<sup>たいほうじ</sup>からみつかり、隼上り瓦窯で焼いた瓦を大鳳寺に運ぶとき、やはり中継点として、当地が利用されていたことが窺われます。



60. 軒丸瓦



62. 丸瓦



61. 平瓦



63. 須恵器杯



64. 瓦器 三足盤



65. 土師器 皿



66. 播鉢



67. 火鉢

## 長岡宮跡

(宮内第134次・第140次)

長岡京時代  
向日市上植野町



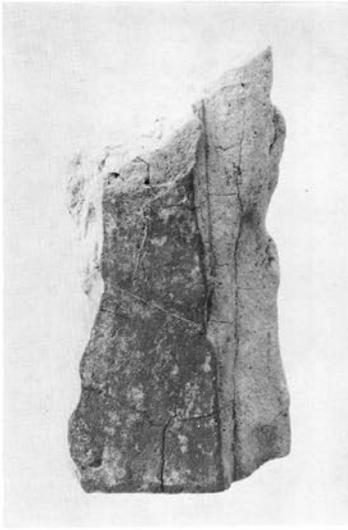
宮内第140次調査 瓦出土状況

### 〔遺跡の概要〕

延暦3(784)年、桓武天皇は、旧勢力からの脱却と律令制の建て直しを企図し、奈良からこの乙訓の地へと都を移しました。しかし、長岡京はわずか10年の都であったために、長く『幻の都』と言われてきましたが、昭和30年の調査以来、かなり整備されていたことがわかってきました。昨年は、礎石をもつ倉庫跡が見つかるなど新たな知見も加わりました。

当調査研究センターは、長岡宮跡第134次・第140次の調査を宮内で実施し、第140次調査では、東西方向に延びる幅2mの溝を検出しました。溝の南肩には多量の瓦が落ち込み、南側に築地か建物があったことがわかります。瓦の他に、鴟尾(屋根の飾り)や吹子、鉄銚(スラグ)の破片も出土し、近くに大きな建物や鍛冶場があったことを窺わせます。

延暦13(794)年に、桓武天皇は平安京へ都を移し、長岡宮内の建物は壊され、使用できるものを運びました。あとには、打ち捨てられた瓦や土器が残り、やがて土に埋もれ忘れさられていきました。この長岡宮跡には、こうした瓦や土器がまだまだ眠っています。



68. 鷗尾片



69. 鷗尾片



70. 鷗尾片



71. 鷗尾片



72・73. 軒平瓦



74. 須惠器 杯



75. 吹子 羽口

## 長岡京跡

(右京第127次・第141次・第148次・第150次、左京第103次)

長岡京時代  
長岡京市下海印寺  
同市今里3丁目  
同市開田3丁目  
同市今里赤ノ上、4丁目  
同市神足柳田



右京第148次調査 掘立柱建物跡

### 〔遺跡の概要〕

当調査研究センターが実施した京域の調査としては、右京第127次・第141次・第148次・第153次・第156次・左京第103次の計6件の調査があります。このうち長岡京に関連した遺跡としては、右京第141次調査で検出した南北方向の溝、右京第148次調査で検出した掘立柱建物跡などがあります。右京第141次調査地は、西二坊大路の西側溝の推定地ですが、検出した南北方向の溝は推定位置より東へ6mずれ、かつ東へ傾いています。北に今里車塚古墳があり、あるいは、この古墳の鞍部に向って道が狭まっていたとも考えられます。右京第147次調査地は、五条大路の南接地で、近辺の調査では多くの長岡京期の建物跡などが見つかっています。この辺りが当時の繁華街の一つであったことを示しています。

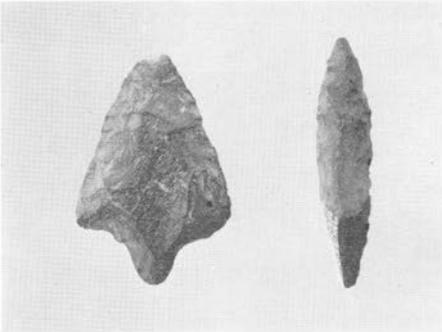
このほか、向日市教育委員会や(財)長岡京市埋蔵文化財センターなどが実施した調査で、東三坊大路や東二坊大路の側溝が見つかったり、長岡京期の建物跡があちこちで確認されたりしています。『幻の都』と言われた長岡京も少しずつではありますが、その全容が明らかにされつつあります。



76. 軒平瓦



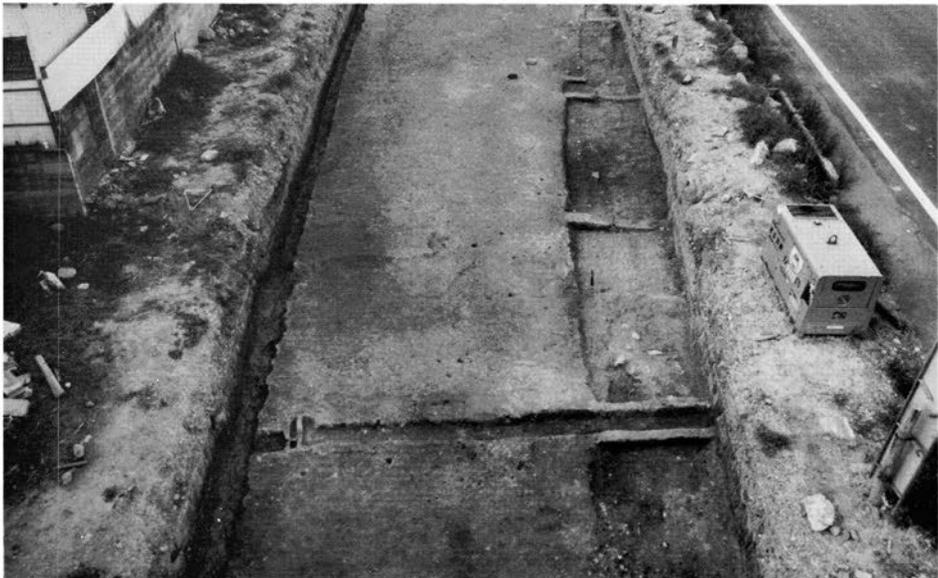
77. 灰釉碗



78. 石 鏃



右京第153次調査地



右京第141次調査地

## 重要文化財三宝院宝篋印塔

南北朝時代  
京都市伏見区醍醐上端山町



重要文化財三宝院宝篋印塔

### 〔遺跡の概要〕

三宝院宝篋印塔は、京都市伏見区醍醐上端山町にあって、三重の基壇をもつ珍しい宝篋印塔として著名なものです。昭和31年6月28日に国の重要文化財に指定されました。

今回は、宝篋印塔が修理されるため、その工事に先立って基壇下の発掘調査を実施しました。寺伝によれば、この宝篋印塔は、醍醐寺第65代座主賢俊ざすけんしゆんの墓といわれていました。発掘調査の結果、基壇内だけで15、全体で24基の埋葬施設の存在が確かめられました。しかも、宝篋印塔直下には2つの蔵骨器ぞうこつきが2段に重なって埋納されていました。1つの宝篋印塔下からこれほど多くの埋葬施設が見つかった例はほかになく、文字通り初めての調査例となりました。

蔵骨器には常滑窯とこなめよう（愛知県常滑市）などの陶器とうきが用いられていて、時代も12世紀末～14世紀にまたがる時期差のあるもので、宝篋印塔との関係が注目されます。



79. 藏骨器 壺



80. 藏骨器 壺



81. 藏骨器 甕



82. 藏骨器 甕



83. 藏骨器 甕



84. 藏骨器 甕



85. 藏骨器 甕



86. 蓋



87. 蓋



88. 藏骨器 甕



89. 藏骨器 甕



90. 藏骨器 甕



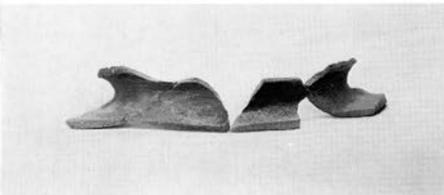
91. 藏骨器 甕



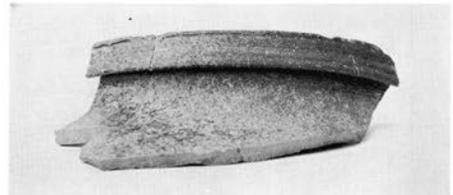
92. 甕



93. 甕



94. 甕



95. 甕



96. 藏骨器 鍋



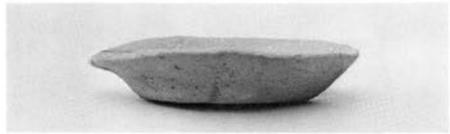
97. 土師皿



98. 土師皿



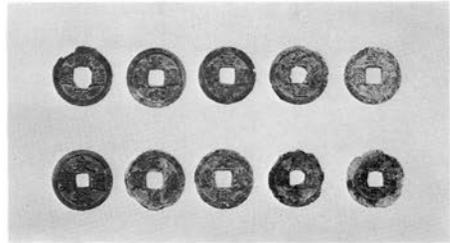
99. 土師皿



100. 土師皿



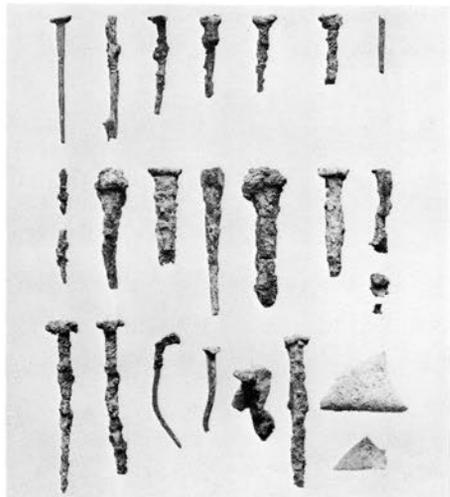
101. 土師皿



102. 古 錢



103. 鉄 釘



104. 鉄釘・銅金具

## 中山城跡

室町時代、江戸時代  
舞鶴市中山



古 墓

### 〔遺跡の概要〕

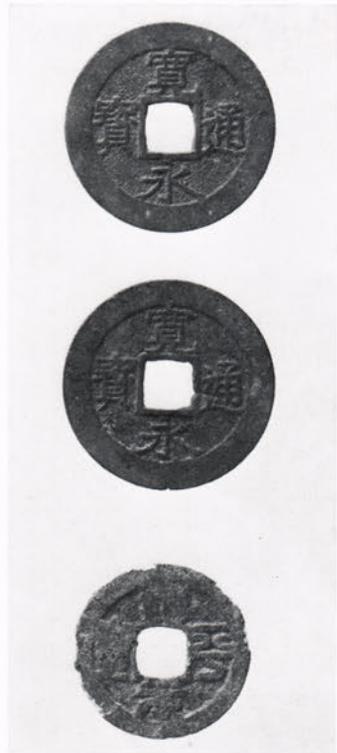
舞鶴市字中山に所在する中山城跡は、丹後守護一色氏の居城建部山城の支城と考えられています。

今回は、中山城跡の最南端部を発掘調査した結果、中世から近世にかけての火葬墓・土葬墓がみつかりました。方形と考えられる土葬墓には、頭を南に置き、両ひざを折り曲げた状態の人骨が1体安置されていました。火葬墓の方は、人骨がある範囲に集中して見られました。このことは、火葬骨が木製藏骨器（木箱？）に納められていたことを示しています。

出土遺物は、紅皿（伊万里焼）、土師皿などの土器類だけでなく、石臼や五輪塔（火輪）の破片や銭貨もありました。何のためにこれらの遺物を入れたかよくわかりませんが、あるいは、魔除けの意味があったのかもしれない。



105. 錫狀頭部



106. 古 錢



107. 銅 鉢



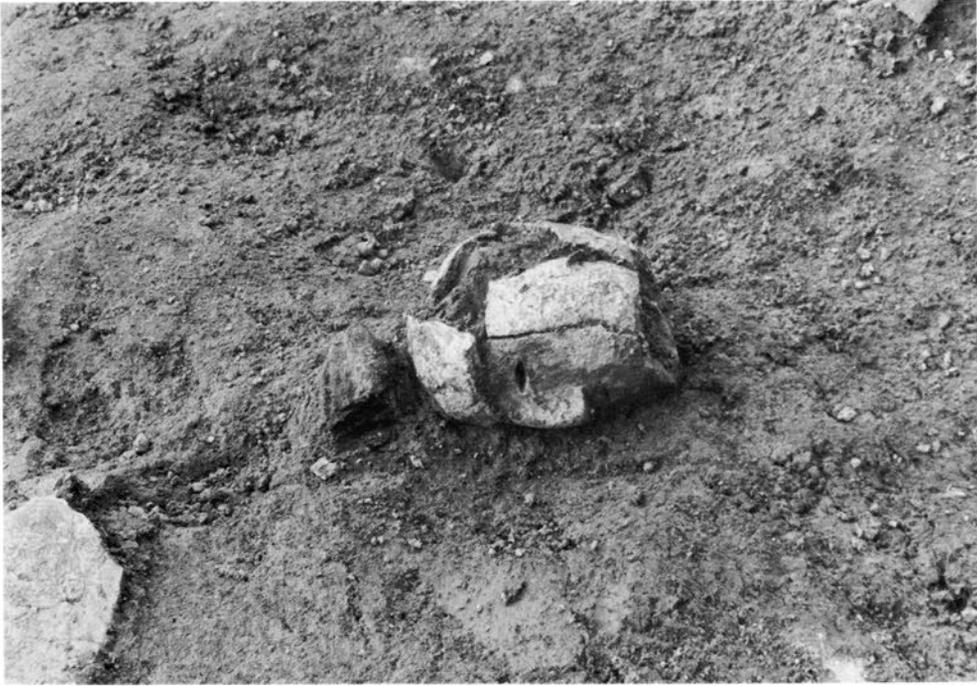
108. 紅 皿



109. 土 師 皿



110. 土 師 皿



人物埴輪頭部出土状況

## 〔遺跡の概要〕

昨年度も展示しました舞塚古墳の人物埴輪まいづか こふん じんぶつはにわ えんとうと円筒埴輪の復元が終わりましたので、ここに再度紹介します。

人物埴輪は、頭部のみでなく、体部きやくだいから脚台きゃくたいの上部まで復元することができました。現高は45cmあります。細い木ノ葉形の目をし、頭髪とうはつは後ろで束ね、頂部がややくぼんでいます。左手を下げ、腰を紐でしばっています。

円筒埴輪は、高さが40cm前後と比較的小形で、たがを3段持ちます。2段目と3段目に円形の透し穴すか あなを2個ずつ穿ち、外面は斜め方向の刷毛目調整はけめを行っています。

舞塚古墳は、全長約40mの帆立貝式ほたてがいの古墳で、埴輪の形から6世紀前半のものと考えられます。乙訓地方おとくにの首長の系譜しゅちよう けいふに連なる人物が葬ふんきゆうむられていたのでしょうか、墳丘はすでに削られ、周濠しゅうごうも埋まり、一面水田と化し、古墳の存在が忘れられてしまいました。現在、古墳の上には幅22mの幹線道路が走って、赤や青の屋根をした家々が建ち並んで、古墳らしさを窺うことはできません。ただ、掘り出された埴輪にその名残りをとどめているにすぎません。



111. 人物埴輪



112. 円筒埴輪



114. 円筒埴輪



113. 円筒埴輪



115. 円筒埴輪

## 展 示 品 目 録

番号	遺跡名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真 番号	番号	遺跡名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真 番号					
1	ケシケ谷 遺跡	石 器	石鏃	16	弥生中期	5・6		手づくね 土器	3	弥生後期						
			石剣	2	〃				15							
			環状石斧	2	〃											
			石斧	2	〃											
			叩き石	1	〃											
		弥生土器	高杯	1	〃	1		土師器		皿	1	奈良時代	13			
			破片	10	〃	2~4			甕	1	古墳前期					
			分銅型土製品	1	〃				4	千代川遺 跡	弥生土器	甕		1		
		鉄 器	鉄斧	1	古 墳	鉢		1				22				
			鉄鏃	2	時期不詳	製塩土器		2				20				
			釘	1	中 世	壺		1								
		2	千代川・ 桑寺遺跡	弥生土器	壺	8		弥生中期				11	土師器	壺		1
					台付壺	1		〃	高杯	1	〃			24		
高杯	1				〃	小型丸底 壺	3	〃	25							
高杯脚	1				〃	甕	1	〃	26							
甕	4				〃	須恵器	杯身	1		古墳後期						
石 器	石鏃				1		〃	杯身(墨 書)	1	平 安	27					
	石剣				4	〃	転用硯	1	〃	21						
	石包丁			2	〃	石 器	石匕	1	弥 生							
石斧	2			〃	石鏃		1	〃								
瓦	7			前期奈良	7・8	5	青野西遺 跡	弥生土器	長頸壺	1	弥生後期	29				
	軒丸瓦			7					〃	甕	1		〃	28		
	軒平瓦			2					〃	土師器	小型甕		1	古墳初期		
	鷗尾片			1					〃		小型平底 鉢		1	〃	31	
	須恵器			15					奈良~平 安	小型丸底 壺	1		〃	30		
				墨書土器					4	〃	9・10		甕		3	〃
	3	北金岐遺 跡	弥生土器	裝飾器台					1	弥生後期	19		高杯	1	〃	33
				高杯					1	〃			器台	2	〃	
壺				8	〃	台付鉢	1	〃	34							
鉢				6	〃	手焙り	1	〃								
台付鉢				3	〃	大型鉢	1	古墳前期								

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号		
		大型器台	1	古墳前期				小型器台	2	古墳前期	50		
		埴	2	〃	32			器台	1	〃			
		蓋	1	〃				高杯	1	〃	49		
		ミニチュア台付鉢	1	〃				長胴甕	1	古墳後期			
		直口壺	1	〃				甕	1	〃			
		高杯杯部	1	〃			須恵器	杯蓋	1	〃			
		二段高杯	1	〃				杯	1	〃			
		碗	1	平安時代				壺	1	〃			
	石器	蛤刃	2	弥生後期			紡錘車		1	〃	53		
		扁平片刃	1	古墳初期			金環		1	〃	52		
		扁平未製品	1	〃									
		砥石	2	〃		8	洞楽寺遺跡	須恵器	杯身	2	古墳後期		
		石鏃	2	〃	35			杯蓋	2	〃	54・55		
	玉類	小玉	1	弥生後期	35			杯	1	平安			
		管玉	1	古墳初期	35			碗	1	古墳後期	56		
	土錘		23	〃				紡錘車	1	〃	57		
	異形土製品		1	〃				土錘	4	〃	59		
6	上中遺跡	土師器	鉢	3	古墳初期	39・41	9	隼上り遺跡	須恵器	杯	1	奈良時代	63
			甕	5	〃	36・37			杯身・杯蓋	各1	古墳後期		
			高杯脚	2	〃				短頸壺	1	〃		
			器台	1	〃	40			硯片	1	〃		
		須恵器	杯蓋	1	古墳後期	42		瓦	軒丸瓦片	1	飛鳥~奈良	60	
			杯身	1	〃	44			丸瓦	1	〃	62	
		土錘		1	〃				平瓦	3	〃	61	
		石器	石鏃	1	縄文	43			三足盤	1	中世	64	
			紡錘車	1	古墳後期				刀子	1	〃		
			叩き石	2	?	38			土師質皿	1	〃	65	
			剝片	少々	?				播鉢	1	〃	66	
									京焼	1	近世		
7	木津川河床遺跡	弥生土器	小型長頸壺	1	弥生後期	45			瀬戸焼	火鉢	1	〃	67
			壺	1	〃	47			信楽焼		1	〃	
		土師器	甕	4	古墳前期	46							
			壺	2	〃	51	10	長岡宮跡	軒平瓦		2	長岡京時代	72・73
			小型丸底壺	2	〃	48			須恵器	杯	1	〃	74

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号
		ふいご	1	長岡京時代	75			紅皿	1	江戸時代	108
		鷗尾片	少々	〃	68~71			棺金具	4	〃	
		鉄 鋳	少々	〃				古 銭	20	〃	106
								土師皿	5	〃	109・110
11	長岡京跡	軒平瓦	1	長岡京時代	76			石 白	1	〃	
		灰釉碗	1	平安時代	77						
		石 鏝	2		78	14	舞塚古墳	人物埴輪	1	古墳後期	111
12	三宝院宝篋印塔	なし						円筒埴輪	8	〃	112~115
								呪符木簡	1	鎌倉時代	
13	中山城跡	錫状頭部	1	江戸時代	105						
		銅 鉢	1	〃	107		14件		327点		

考 古 展

第3回「小さな展覧会」

—昭和58年度発掘調査の成果から—

昭和59年8月20日（月）～8月31日（金）

発 行 （財）京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3  
TEL (075) 933-3877 (代)

印 刷 中 西 印 刷 株 式 会 社  
代表者 中 西 亨

〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL (075) 441-3155 (代)

M E M O

M E M O

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1984・8・20～8・31

